

災害時にペットを守るために・・・

とるべき行動を知っていますか？

ペット「同行避難」 災害前の主な対策



- ☑ ケージに入ることを嫌がらないようにならす
- ☑ 人やほかの動物を怖がらないようにならす
- ☑ ペットフードやトイレ用品などペット用の避難用品の確保
- ☑ 決められた場所で排泄するなどのしつけ
- ☑ ペット受け入れ可能な避難所の把握など事前の情報収集
- ☑ 親戚や友人など一時預け先の確保
- ☑ 各種ワクチンの接種や寄生虫の駆除

災害時の対応は、飼い主による「自助」が基本です。

同行避難

・災害の発生時に、飼い主が飼養しているペットを同行し、指定避難場所等まで避難すること。

※同行避難とは、ペットと共に移動を伴う避難行動をすることを指し、避難所等において飼い主がペットを同室で飼養管理することを意味するものではありません。

※筑後市では、**中央公民館(サンコア)でゲージに入れた状態のみ受け入れます。**

同伴避難

・被災者が避難所でペットを飼養管理すること。

※避難所などで飼い主がペットを同室で飼養管理することを意味するものではなく、ペットの飼養環境は避難所等によって異なります。**筑後市では、ペットと同室で飼養管理できる避難所はありません。**

check!

準備しておきたい
防災グッズ



最低5日分のフードと飲料水、食器



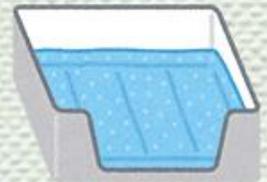
ペットの写真、健康メモ、
鑑札・注射済票



首輪、リード、
迷子札



キャリーバッグ



ペットシート、
猫砂、排泄用品

災害への対応には、いわゆる「自助」、「共助」、「公助」があり、人の災害対策では、何よりも「自助」、次いで「共助」が基本だとされています。

大規模な災害ともなれば、発生直後の「公助」に大きな役割を期待することが難しく、まずは「自助」により自分自身の身を守ることが必須になります。

このことは、ペットの飼い主にとっても同じです。災害時に行われる行政機関による支援（公助）では、人の救護が基本であることから、災害の発生当初には、ペットフードや水などの支援ですら困難です。飼い主はこうした場合にあっても、ペットの安全と健康を守り、他者に迷惑をかけることなく、災害を乗り越えてペットを適正に飼養管理していく責務があります。したがって普段から、災害時に必要となる備えをし、地域社会に受け入れられるように、ペットを適正に飼養管理する必要があります。

発災時に、飼い主が自身の安全を確保した上で、災害の状況を見極め、より安全な避難場所を確保するために、ペットと共に避難行動（同行避難など）をとることがペットを守るための第一歩です。

堅牢なマンションなどであれば、在宅避難を推奨しています。